

1級損害保険登録鑑定人

簿記会計

試験問題用紙

(2020年1月)

注意事項

1. 試験責任者の指示があるまで開かないで下さい。
2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認して下さい。解答用紙がない場合は直ちに申し出て下さい。
3. 解答用紙には受験番号、氏名、受験地を必ず記入して下さい。
受験番号は6桁の数字を左の欄から順に正確に記入し、その数字と同じ箇所をマークして下さい。記入漏れや間違った受験番号を記入すると採点できませんので、解答した内容はすべて無効(得点なし)となります。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出して下さい(問題用紙は持ち帰って結構です)。また、解答を解答用紙以外に記入しても無効となります。
5. 解答は解答用紙の該当する問題の解答欄に解答を楷書で記入して下さい。
6. HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシルを使用して下さい。HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシル以外(万年筆、ボールペン、サインペン、色鉛筆等)は使用不可です。
7. 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消して下さい(消し方が不十分な場合には解答が正しく読み取れないことがあります)。プラスチック製の消しゴム以外(修正液等)は使用不可です。
8. 解答用紙の読み取りは機械処理をしますので、折り曲げたり、汚したり、記入欄以外の余白および裏面には何も記入しないで下さい。
9. 試験時間は正味50分です。
10. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
11. 試験時間中の私語は禁止します。
12. 資料等の使用はいっさい認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまって下さい。
13. 試験時間中は、携帯電話・スマートフォン等の通信機能・記憶機能を有する機器の使用は、時計として使用することを含めていっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいて下さい。
14. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いて下さい。
15. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出て下さい。

一般社団法人 日本損害保険協会

記述式の問題です。解答は楷書で解答欄へ記入して下さい。

【問題 1】

次の 1～5 の取引の仕訳を解答用紙に記入して下さい。

なお、勘定科目は下記の勘定科目表から最も適当なものを選んで下さい。

1. A商店に対する買掛金 500,000 円の支払いにあたり、200,000 円は得意先 B 商店振り出し、当店あての約束手形を裏書譲渡し、300,000 円は A 商店宛の約束手形を振り出して支払った。ただし、保証債務の時価は手形額面金額の 2% とする。
2. C 商事株式会社は、次の条件で発行した社債のうち、額面 20,000,000 円を発行後 5 年目の初頭に額面 100 円につき、98.60 円で買入償還し、小切手を振り出して支払った。ただし、社債の評価は定額法による償却原価法を採用している。

発行条件	額面総額 60,000,000	払込金額	額面 100 円につき 97.80 円
	償還期限 8 年	利率	年 1.2%
3. D 工業株式会社は建物の改良と修繕を行い、その代金 8,000,000 円を小切手を振り出して支払った。ただし、代金のうち 5,000,000 円は建物の使用可能期間を延長させる支出と認められ、残額は通常の維持管理のための支出である。
4. 決算にあたり、その他有価証券として保有する次の株式を時価で評価した。

E 社株式	10 株	取得原価	1 株 50,000 円	時価	1 株 80,000 円
F 社株式	20 株	取得原価	1 株 60,000 円	時価	1 株 55,000 円
5. G 産業株式会社は、自己株式（1 株の帳簿価額 70,000 円）20 株を消却した。

《勘定科目表》

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形
売 掛 金	その他有価証券	建 物
支 払 手 形	買 掛 金	保 証 債 務
社 債	資 本 金	資 本 準 備 金
その他資本剰余金	利 益 準 備 金	その他利益剰余金
自 己 株 式	その他有価証券評価差額金	有価証券評価益
社 債 償 還 益	保証債務取崩益	有価証券評価損
社 債 償 還 損	修 繕 費	保 証 債 務 費 用

【問題2】

等級別総合原価計算を採用しているKS製作所における下記の1月の製造勘定と資料により、次の1～5の金額を答えて下さい。

1. 当月労務費
2. 当月経費
3. 1級製品等級別製造原価
4. 2級製品単価
5. 3級製品等級別製造原価

		製 造	
前月繰越	200	諸 口	1,500
材 料	()	次月繰越	()
労 務 費	()		
経 費	()		
	()		()

<資料>

- ① 材 料 予定消費高 700円 実際消費高 720円
- ② 労務費 当月支払高 490円 前月末払高 80円 当月未払高 190円
- ③ 経 費 当月支払高 310円 前月前払高 40円 当月前払高 50円
- ④ 当月の等級別総合原価計算表

等級別総合原価計算表

令和2年1月分

等級別製品	重 量	等価係数	完成品数量	積 数	等級別製造原価	製品単価
1級製品	6 kg		40 個			
2級製品	4		50			
3級製品	2		80			

なお、等価係数は製品1個当たりの重量を基準として定めている。

【問題3】

次の元帳勘定残高と付記事項および決算整理事項に基づき、損益計算書と貸借対照表を作成し、空欄の1～15に当てはまる金額または項目名を解答用紙に記入して下さい。ただし、決算日は令和2年3月31日とします。

〈元帳勘定残高〉 単位:千円

現金	540	当座預金	4,380	受取手形	900
売掛金	1,700	貸倒引当金	30	売買目的有価証券	1,600
繰越商品	7,000	仮払法人税等	300	備品	15,000
減価償却累計額	5,000	支払手形	800	買掛金	1,300
手形借入金	1,000	仮受金	100	借入金	4,000
退職給付引当金	2,800	資本金	8,000	資本準備金	1,500
利益準備金	400	繰越利益剰余金	1,400	売上	90,000
受取配当金	100	仕入	60,000	給料	22,000
広告料	650	支払家賃	1,350	保険料	600
雑費	100	株式交付費	300	支払利息	10

〈付記事項〉

- ① 買掛金支払のための小切手 200 千円については記帳済であるが、仕入先に渡していなかった。
- ② 当座預金口座に入金された得意先振出しの約束手形 300 千円が未記帳である。
- ③ 仮受金 100 千円は、売掛金の回収であることがわかった。
- ④ 仕入れの際の引取運賃 40 千円を雑費で処理している。
- ⑤ 借入金 4,000 千円の返済期限は、令和3年4月30日である。

〈決算整理事項〉

1. 期末商品棚卸高 帳簿棚卸数量 400 個 原価 20 千円
実地棚卸数量 390 個 正味売却価額 18 千円
2. 貸倒引当金 受取手形と売掛金の期末残高に対して、それぞれ2%見積もる。
3. 売買目的有価証券の評価 売買目的有価証券 1,600 千円は、すべてH社株式である。
H社株式 40 株 1株の時価 42 千円
4. 備品の減価償却 定率法により耐用年数は8年とし、償却率は0.250とする。
5. 保険料の繰り延べ 保険料は毎年7月1日に向こう1年分を支払うことになっており、繰り延べ計上する。
6. 家賃の見越し 家賃は毎年12月末に経過した1年分を支払うことになっており、見越し計上する。
7. 退職給付引当金当期計上額 200 千円
8. 法人税・住民税及び事業税額 500 千円

損益計算書

自平成31年4月1日至令和2年3月31日

(単位:千円)

I 売上高	()	
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	()	
2 ()	()	
合計	()	
3 ()	()	
	()	
4 商品評価損	()	
5 棚卸減耗損	()	()
売上総利益		(1)
III 販売費及び一般管理費		
1 ()	()	
2 ()	()	
3 支払家賃	(2)	
4 保険料	(3)	
5 貸倒引当金繰入	(4)	
6 ()	()	
7 ()	()	
8 ()	()	(5)
()		()
IV 営業外収益		
1 受取配当金	()	
2 有価証券評価益	(6)	()
V 営業外費用		
1 ()	()	
2 ()	()	()
税引前当期純利益		()
法人税等		()
当期純利益		(7)

貸借対照表

令和2年3月31日

(単位:千円)

資産の部		負債及び純資産の部	
I 流動資産		I 流動負債	
現金預金	(8)	支払手形	()
受取手形	()	買掛金	()
貸倒引当金	()	(12)	1,000
()	()	未払法人税等	(13)
貸倒引当金	()	()	(14)
有価証券	()	II 固定負債	
商品	()	()	()
()	(10)	()	()
II 固定資産		負債合計	()
備品	()	I 資本金	()
減価償却累計額	()	II 資本剰余金	()
	(11)	()	()
		III ()	
		利益準備金	()
		()	(15)
		純資産合計	()
資産合計	()	負債及び純資産合計	()

<MEMO>